

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営 1.理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	基本理念 私たちは、福祉・環境・少子の問題について社会に貢献し、すべての人が幸福になれるよう援助していくことを目的とする。 心の約束...行動指針も具体的に文章化している。 (笑って死ねますか?)		
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念は額に入れて玄関および居間に掲げられている。その他に、笑顔と挨拶で明るい生活と標語も掲げている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	ホーム内に理念を掲示し浸透を図っている。推進会議にて協力・理解をいただいている。		
2.地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	近所の人に対しては、挨拶をするよう職員には伝えている。運営推進会議への参加声がけしている。		
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	町内会に加入し、総会・ゴミ収集説明会・もちつき会への参加。ホームの敬老会に紅白幕の貸し出し依頼もした。		
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会の行事には積極的に参加するよう努めているが、事業者の力を活かした地域貢献には至っていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	評価の意義を理解し、職員間で共有認識し改善・向上に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議内容・意見・要望等について職員間で情報共有し、話し合いサービス向上の努力に努めている。		
9 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	定期的ではなく、必要時電話相談している。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	職員にはマニュアルを閲覧できるようにファイルしてある。家族にも同じ物をコピーしお渡ししている。		
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	職員にはマニュアルを閲覧できるようにファイルしてある。個々にも資料を渡し、勉強会を開き、話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時に契約書の説明を行い、十分納得して頂くようにしている。不安、疑問にもその都度対応している。		
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日々利用者に声がけを行い、意見、不満、苦情を聞くようにしている、外部へは運営推進会議で意見交換を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んで いきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>利用者の暮らしぶりは、「なつれ通信」や運営推進会議等でお知らせしている。健康状態等はその都度連絡している。</p>		
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族の意見、不満、苦情等はその都度傾聴し、推進会議やなつれ通信等でも呼びかけ、運営の反映につなげている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>月1回のユニット会議や毎日のミーティング等で意見や提案の場を設けている。職員は、普段から管理者に意見や提案をしてくれる。運営者に報告し、反映につなげている。</p>		
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>職員間の協力で、勤務調整を行っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員の異動や離職がある場合は、人員の募集をかけ、欠員がないよう、職員配置に心がけている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		<p>受講資格者は、順番、交替で外部研修に参加させている。社内研修は全員参加している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		<p>管理者は区内の管理者会議に参加している。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		<p>職員間で親睦会を開き、日々のストレス軽減に努めている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>		<p>入居者ひとりひとりに担当を持ち、責任ややりがいを感じて関わってもらっている。</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>担当を中心に、入居者の様子を観察し、話しかけ、会話を通して、困っていること、不安なこと、求めていること等を情報共有し、受け止める努力をしている。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>		<p>入居前から入居後まで、困っていること、不安なこと、求めていること等情報収集し受け止める努力をしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時の情報と観察し得た情報を分析し見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にできるだけ、ご本人や御家族に見学して頂き、ホームの雰囲気をつかんで頂いている。入居の際には、その時の様子や情報を元に食事席や対応方法を検討したり、家族と相談したりしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	利用者の得意分野で力を発揮してもらう場面を作り、学んだり支えあう関係を築いている。		
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	利用者の日々の生活状況を報告し、情報共有に努めながら一緒に本人を支えていく関係を築いている。		
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者との関係を理解し、よりよい関係が築けるように努力している。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、知人等の面会を勧め、家族との外出、外泊の機会を続けながら馴染みの人や場所との関係がとぎれないよう、支援している。		
31 利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の相性や認知症の程度を考慮して、食席や外出の組み合わせ等を決めている。難聴で会話等孤立してしまいがちな方には、職員が間に入りフォローしたり、筆談したり関わる環境作りに努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
32 関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	他施設に転居された場合は、面会等するようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1.一人ひとりの把握			
33 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者や家族の話をよく聴いたり、行動観察の中から、希望、意向を把握するように努めている。困難な場合は、表情やしぐさ、行動等で把握するように努めている。		
34 これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境等はセンター方式等を家族に書いてもらったり、職員でアセスメントして把握している。		
35 暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日々の観察、記録で職員が情報共有し把握している。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護支援専門員を兼ねている管理者の監理のもとで、居室担当を中心にモニタリングしながら、意見、アイデアを出し、本人や家族の思い等も反映した介護計画を作成している。		
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の期間に応じて見直しを行い、状況変化が見られたり、サービスが変わった時等必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録により、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望状況により、臨機応変な対応がとれる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	畑づくりをボランティアさんをお願いし、協力をいただいている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	訪問理容、オムツサービスを活用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの介護支援専門員も参加していただき、意見もいただいている。		
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医は往診で、親身になって診てくれている。24時間体制で適切なアドバイスや医療を受けられ、信頼関係も築けている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	専門医の受診の必要性を感じた場合には、家族やかかりつけ医に相談し、受診できる支援している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>45 看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>週1回看護師の来所による健康管理を行っている。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>入院した際は、介護添書にて情報提供や相談を行い、かかりつけ医とも情報共有し、連携を取って早期退院に努めている。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>入居時に終末について、家族の考え方を聞いている。</p>		
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>利用者の身体状況を観察し、変化があった場合には、家族やかかりつけ医に報告している。</p>		
<p>49 住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>情報の交換を行い、環境変化によるダメージを最小限に抑えるよう配慮している。</p>		
<p>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>利用者に関わる上で、言葉使いや対応に気をつけている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	生活に対する思いや希望をできるだけ、聞くように、日々話しかけを行っている。		
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合で一日を送ることはしないで、体調に合わせたペースで過ごしていけるよう支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	訪問理容をほとんどの方が利用しているが、外泊の際御家族がされている方もいらっしゃる。		
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力に合わせて、食事の準備、後かたづけ等は職員と一緒にしている。		
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙者が居る場合は、見守りしているが、現在はいない。おやつは希望を取り入れている。		
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄チェックをすることで、排泄パターンや習慣を把握し、定期的な誘導、声かけ等で失敗を防ぎ、本人に不快感を与えないよう支援している。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	日曜日以外の週6回の中で、週2回午後から提供している。利用者の体調や受診日のタイミングに合わせている。ゆっくり入浴し、楽しんで頂けるようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	休息や睡眠については、自由にさせていただいている。夜、寝付くまで側で見守り等も行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの力を活かした役割をお願いし、メリハリのある暮らしができるよう支援している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	自己管理できる方には所持していただき、それ以外の方はいつでも自由に使えるように支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	職員と一緒に散歩や外気浴、買い物に出かけられるよう支援している。外出レクも毎月行っている。		
62 普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族との外出は自由に行っていたり、花見や防災センター見学等普段行けない場所へは職員と一緒に出かける機会をつくり、支援している。		
63 電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話は希望があれば使ってもらえるよう支援している。来た手紙はお渡しするが、出したいと希望される方は現在いない。		
64 家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間や場所は決めて折らず、いつでも自由に訪問できるようになっている。お部屋でも居間でもお茶を飲みながらゆっくりおしゃべりしていただき、居心地良く過ごせるように配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいる きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
65 身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員に資料を配付し勉強会を行ったり、マニュアルを常に閲覧できるようにしてある。		
66 鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄關に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄關には鍵をかけていなく、見守り強化で対応している。		
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	安全見守りは欠かさず行っている。一人ひとりの所在や様子を把握し、見守りしている。		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	洗剤類等は眼にふれない場所に保管している。残された機能や理解力を考慮しながら安全に取り扱っていただけるように見守りしている。		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	一人ひとりの状態を観察、把握しあらゆる危険を想定し、事故防止に取り組んでいる。		
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や事故発生時の対応をすぐに見れる場所に貼ったり、マニュアルも常に閲覧できるようにしてある。		
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	職員と利用者一緒に防災センターを見学し、消火、地震、けむり体験等している。避難訓練も定期的に行っている。避難場所として共同住宅を設定している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	入居時や来訪時、または電話でお話する機会を持っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異常の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日バイタル測定と観察、訴え等で体調変化に迅速に気づけるように努め、情報を共有している。状況によって主治医につなげている。		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	利用者の疾患を理解し、薬の内容は個人ファイルに綴っており、常に把握できるようにしてある。変更等が生じた場合は、連絡ノートや医師指示簿に記載し、口答でも申し送る。		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日の体操や散歩等で身体を動かす機会を提供し、水分摂取量にも十分考慮しながら便秘対策に努めている。起きがけに牛乳も提供している。又、主治医に一人ひとり下剤の指示をもらい排便コントロールしている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	一人ひとりの能力に応じて、毎食後声かけ、見守り、介助にて支援している。状況により、訪問歯科医のブラッシング指導を受けている		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事・水分量は個人記録に記録し状態を把握している。食事量が不足している場合は、栄養剤等を補足している。		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを常に閲覧できるようにしてある。インフルエンザの予防接種は全員受けている。新型インフルエンザの予防接種は希望者のみ接種されている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具、布巾、流しまわり等は毎晩消毒を行っている。食材の在庫チェックや賞味期限は常にチェックし、新鮮で安全なしょくざいの使用と管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	木彫りの表札を掲げ、プランターの花を夏季は玄関前の階段に置いている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	住宅改造型の家庭的な雰囲気を活かしている。壁には季節の飾りや手書きの行事予定や行事写真を貼っている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居間に気軽に集まり、ソファの好きな場所に座り、一人になったり、気の合う同士でおしゃべりや歌を歌ったり、くつろげる場所の提供をしている。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた物や、好みの物を持って来て頂き、居心地良く過ごして頂いている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがなく換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気扇は24時間切らず、全館温度差がないように、ドアを開放し、扇風機で空気を循環している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>85 身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人ひとりの身体機能に合わせた居室。手すりや階段昇降機を設置している。</p>		
<p>86 わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>居室壁には、本人写真を貼り、トイレ等には表示をし、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>		
<p>87 建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>プランターの花や畑があり、水やりや職員と一緒に収穫等楽しんで頂いている。</p>		

サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい 様になっている。 ほとんど掴んでいない</p> <p>介護計画には、その人らしく生活できるような支</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある の時間を ほとんどない</p> <p>職員と会話やレク等を行うことで、ホールでほとんど 過ごされている。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>押しつけないゆとりある支援を行っています。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>リラックスした一日を過ごされています。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>希望者の対応はしています。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 いる。 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>医療連携の確保により、24時間安心していただいで</p>
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい で、安心した生 ほとんどいない</p> <p>一人ひとりの要望に対応できるように努めている事 活が送られている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい た意見・要望 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>何かあればその都度、報告・確認の連絡を取り、ま 等を聞くようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p>
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<p>大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない</p>
98	職員は、生き生きと働いている	<p>ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが にしている。 職員の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>利用者に関わり、一人ひとりの笑顔をみることを目標</p>
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが れ、全ての 利用者の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>サービスには満足しているが、自己中心的な方もおら 満足は難しい。</p>
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<p>ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが は、馴染みの職 家族等の1/3くらいが ほとんどいない</p> <p>家族はほぼ満足している。職員の交代がある場合 員がいくることに不安を感じている。</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)